

「10+助数詞」の読み

「10回」「10歳」「10%」など、助数詞が付いた場合の「10」は、[ジツ]と[ジュツ]の2つの読みの間でゆれがある。「十」の本来の漢字音は[シフ]であり、うしろにカサタハ行などの音で始まることばが来ると促音化して[ジツ]となるのが伝統的な形だが、世の中では[ジュツ]のほうが一般的だろう。「十」がのちに[ジュー]と発音されるようになり、その形に近い[ジュツ]が使われるようになったためだ。NHKでは、「10」の読みに関して、かつては伝統的な読みの方で統一されていた時代もあった。しかし、昭和41年の放送用語委員会で「20世紀」の読みについて[ジツ][ジュツ]の両様の読みを認め、ほかの用例についてもこの決定を準用することを決めて以来、どちらの読みも同等に使えることになっている。

実際のNHKの放送はどうだろうか。これだけ[ジュツ]が市民権を得ているにもかかわらず、「消費税10%をめぐる協議…」「横綱は10回目の全勝優勝…」「20か国が参加しての国際会議…」など、アナウンサーの発音には、年齢にかかわらず[ジツ]の発音が結構使われていることに気付く。ふだん使っているのは[ジュツ]だが、放送、特にニュースなどでは伝統的な[ジツ]を使うようにしているというアナウンサーが多いようだ。伝統的な本来の読み方を選択し、信頼性を高めようという意識の表れのように見える(いや、「聞こえる」)。

しかし、国民的ヒット曲『いっぽんでもニンジン』(作詞:前田利博)で、「じゅっこでもイチゴ…」と歌われたのが40年前。文化庁が行った平成15年度の「国語に関する世論調査」でも、「10匹」を75%の人が[ジュツピキ]と発音しているという結果となった。世の中では[ジュツ]の読みの方がいわば「主流」となっている。さらに、平成22年の常用漢字表の改定では、それまで「ジュウ・ジツ・とお・と」のみとされてきた「十」の読みに関して、補足として「ジュツとも」と書き加えられた。こうした流れを受けて、最近の国語辞書の中には、[ジュツ]を「新しい発音」(『三省堂国語辞典第七版』)、「[じゅう]の変化」(『新選国語辞典第九版』)として掲載しているものも出てきている。ずっと[ジツ]で教えてきた小学校の国語の教科書のなかにも、平成24年度から、かっこ書きではあるが[ジュツ]の読みを載せているものが登場した。学校現場にも実態に即した対応をしようという兆しが見られる。

NHKで使われることばは、世の中から半歩遅れるくらいがちょうどいいといわれる。NHKに伝統的な規範性を求める声は根強い。しかし二歩も三歩も遅れると、親しみやすい放送からは遠のく。規範性が親しみやすさか。「10」を[ジツ]と読むか[ジュツ]と読むかは、放送の送り手のスタンスを映し出す“ジュー”大な問題ともいえそうだ。

滝島雅子(たきしま まさこ)